

会 師 医 師
小 牧 市 医 師 会
苦 小 牧 市 医 師 会

橋 本 洋 一

生命に危険のない 頭痛と危険な頭痛

病院を訪れる患者さんの訴えの上位を占めるものの一つに頭痛があります。頭痛にはアメリカNIHの分類で十五種類、国際頭痛学会による分類で十三種類とたくさんありますが、重要なことは、生命に危険のない頭痛と危険な頭痛を区別することだと思えます。

まず、生命に危険のない三つの頭痛について考えてみましょう。

牽(けん)引性頭痛など検査を

う。

「後頭部が重苦しい」「頭が圧迫されるような感じがする」「頭の上に何か物がかぶさったような感じがする」といった頭重感を伴った頭痛は、肩や首筋の筋肉が緊張しているために起き、筋緊張性頭痛と呼ばれています。精神的なストレスや疲労が原因と言われていますが、筋肉の緊張をやらわらげる薬や精神的

な緊張を軽くする薬が効果的です。また、ややぬるめのお湯につかって、肩や首の筋肉をもみほぐしたり、休日などに気分転換をはかることもいいでしょう。

頭の半分がズキンズキンと脈打つ頭痛を片頭痛と言いますが、血管の拡張が頭痛の原因であると考えられる血管性頭痛の一つです。目の前にピカピカ光

るものが見えたり、ギザギザの図形が出現する、いわゆる「前兆を伴う片頭痛」(以前は典型的片頭痛)と呼ばれるものもあります。このような片頭痛を含む血管性頭痛には、特効薬がありません。筋緊張性頭痛と血管性頭痛の両者を伴う頭痛は、連合性頭痛と呼ばれています。生命に危険な頭痛の代表格として次の二つの頭痛があります。

す。突然、いままで経験したことのない激しい頭痛が起こり、ずっと持続した場合、くも膜下出血を疑わなければなりません。また、頭が引つ張られる感じの頭痛を牽(けん)引性頭痛と言ひ、脳腫瘍が疑われます。現在、簡単に頭のなかを検査できるCTスキャンやMRIがありますので、上記のような頭痛がある方は、検査されることをお勧めします。

この原稿を書き終えることが頭痛の種でしたが、頭痛は私たちの生活とともにあり、その中に生命に危険なものがあることを頭の片隅に入れて置いていたければ、幸いです。

お問い合わせは、苦小牧医師会

電話 33-4720へ